

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 剰余金の配当 9月30日・3月31日
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
株主名簿管理人事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
公告の方法	下記ホームページに掲載する。 http://www.nsg.co.jp/
会計監査人	EY新日本有限責任監査法人

ご住所変更などのお届出およびご照会は、株主様の口座のある証券会社宛にお願いいたします。
証券会社の口座に当社の株式を預けられていない株主様の株式につきましては、下記の電話ご照会先までお問い合わせください。

単元未満株式をご所有の株主様へ

単元未満株式(最低取引単位に満たない1~99株の株式)をご所有の場合、当社に対して、
(1)買取請求または(2)買増請求をすることができます。
お手続きの詳細につきましては、一般口座ご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社までお問い合わせください。特別口座の株主様(証券会社の口座に当社の株式を預けられていない株主様)につきましては、下記の電話ご照会先までお問い合わせください。

郵便物ご送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話ご照会先	☎ 0120-782-031 (フリーダイヤル)

表紙写真:1920年、当社は現在の福岡県北九州市に最初の工場(二島工場)を建設し、コルバーン式板ガラス製造設備を米国リビー・オーエンスシートガラス社から導入して、日本初の板引法によるガラス生産を開始しました。

ホームページのご案内

当社グループのホームページでは、決算情報や最新プレスリリースなど、様々な情報を掲載しております。どうぞご利用ください。

<http://www.nsg.co.jp/>

日本語版



スマートフォンからは
こちらのQRコードを
お使いください



買取制度

株主様がご所有の単元未満株式について、当社に対して買取の請求をすることができる制度です。

買増制度

株主様が、当社に対して、ご所有の単元未満株式の数とあわせて1単元(100株)となる数の株式の買増の請求をすることができる制度です。

買取・買増制度の例(160株ご所有の場合)



株主の皆様へ

日本板硝子株式会社

第153期 中間報告書

2018年4月1日 ~ 2018年9月30日



「人」を力に
新たな100年へ

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



証券コード: 5202



ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに当社グループの第153期中間期(2018年4月1日から2018年9月30日まで)の概況についてご報告申し上げます。

第153期中間期の総括

当社グループの当期上半期の業績は、売上高が3,081億円(前年同期比5%増)、営業利益が179億円(同1%増)、親会社の所有者に帰属する四半期利益が93億円(同94%増)となりました。欧州を中心に好調な市場環境が継続し、ソーラー用をはじめとするVA(高付加価値)製品も引き続き伸長を見せています。欧州自動車用ガラスや高機能ガラス等での業績改善も、原燃材料等のコスト増を吸収し、上半期の増収に貢献しました。

業績が計画通り順調に進捗していることを踏まえ、当社取締役会は、中間配当として予定通り100周年記念配当(1株あたり10円)の実施を決議いたしました。当社は、持続可能な事業の業績をベースにして、安定的に配当を実施することを利益配分の基本方針としており、今後とも継続的な配当の実施に努めてまいります。また、A種種類株式の一部償還についても、実施することを決議いたしました。これは継続的に収益が改善してきていること、及び現在の財務状況が概ね安定化していることを踏まえたもので、資金コストの削減に寄与します。

MTP フェーズ2の進捗について

当期は中期経営計画「MTPフェーズ2」の2年目に当たります。2019年3月期の方針として掲げている「Shift to VA + Growth」のもと、①事業収益力の強化、②トップラインの拡大、を目指し事業に取り組んでいます。①事業収益力の強化としては、VA売上比率が着実な上昇を見せており、営業利益の改善に貢献しています。②トップラインの拡大として

は、新興市場である南米アルゼンチンにおいて、フロートガラス工場を増設することを決定いたしました。南米は今後とも成長が見込まれる有望なガラス市場であり、当地においてNSGグループが確立している顧客基盤及び市場ポジションを、更に強固なものにすることが期待できます。

最近の経済情勢としては米国中国間の通商摩擦の激化などの要因により、世界経済後退への懸念も示され始めています。引き続き様々なリスクを注視しながら、営業利益6期連続増益に向けて、事業を前進させてまいります。

次の100年に向けて

当社は2018年11月22日に創立100周年を迎えました。株主各位をはじめとするステークホルダーの皆様への永年にわたるご理解とご支援に、グループ役員・従業員一同心よりお礼申し上げます。100周年のコンセプトは、「人」を力に「新たな100年へ」です。これは、多様でグローバルな人材を活かし、創立以来変わらぬご支援をいただいていたステークホルダーの方々とともに「次の100年を創っていく」決意を表しています。今年4月から100周年記念プログラムを開始し、特設ウェブサイトや公式Facebookなども開設しておりますので、是非ご覧いただきたいと思っております。

100周年を機に、新経営指針「Our Vision」を策定いたしました。グローバルイノベーションやテクノロジーの進化に伴い、当社を取り巻く事業環境は大きく変化しつつあります。経営陣や世界中の従業員からヒアリングを行った際、聞こえてきたのは「NSGグループを変えたい」という思いでした。それらの



思いを、「使命：NSGの存在意義」「目指す姿：NSGのなりたい姿」「コアバリュー：使命の遂行と目指す姿の実現に向けた心構え」に込めました。

今年は、グループとして初めてとなる「統合報告書」も発行いたしました。従来の「サステナビリティレポート」と「アニュアルレポート」に代わり、持続的成長可能な社会の実現に向けた当社の取り組みをお伝えするものです。ガラス製造はエネルギー多消費型産業ですが、その一方で、当社独自の技術やVA製品の提供を通じて、温室効果ガスの排出削減や気候変動の影響緩和等、社会的課題の解決に貢献することが可能です。当社グループも社会の一員として責任を持ち、私たちの使命であるより良い世界を築くため、たゆまぬ努力を続けてまいります。

2018年12月

日本板硝子株式会社
代表執行役社長兼CEO

森 重樹

連結業績ハイライト

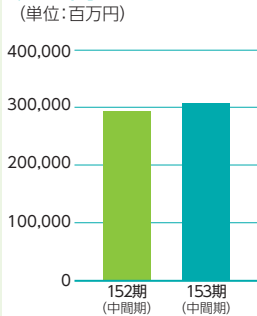
連結損益計算書(要旨)

	第153期 (中間期) (2018年4月1日～ 2018年9月30日)	第152期 (中間期) (2017年4月1日～ 2017年9月30日)
売上高(百万円)	308,143	293,997
営業利益(百万円)	17,856	17,626
税引前四半期利益(百万円)	13,713	9,229
四半期利益(百万円)	9,983	5,547
親会社の所有者に帰属する四半期利益(百万円)	9,261	4,765
基本的1株当たり四半期利益(円)	90.16	42.74

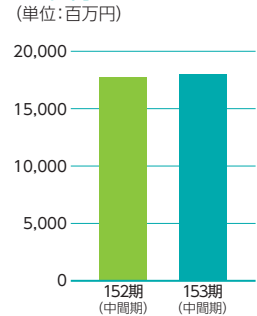
連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

	第153期 (中間期) (2018年4月1日～ 2018年9月30日)	第152期 (中間期) (2017年4月1日～ 2017年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,092	5,255
投資活動によるキャッシュ・フロー (フリー・キャッシュ・フロー)	△12,259	△12,383
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,385	△26,601
現金および現金同等物の四半期末残高	50,786	47,778

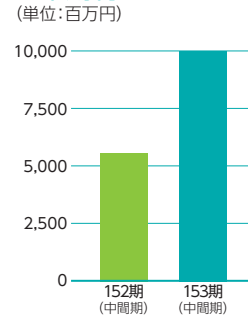
売上高



営業利益



四半期利益

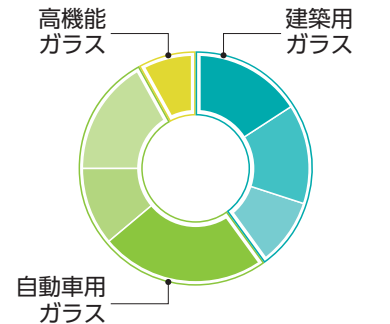


注: 当社は、第146期より国際会計基準(IFRS)に基づいて連結財務諸表を作成しています。当社は今期よりIFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」を適用しております。同基準の適用により、IAS第8号「会計方針、会計上の見積りの変更及び誤謬」に従い、比較情報としての第152期(中間期)及び第152期(2018年3月期)について修正再表示を行っております。上記の営業利益については、個別開示項目ベースの営業利益を記載しています。

連結貸借対照表(要旨)

	第153期 (中間期) (2018年9月30日)	第152期 (2018年3月期) (2018年3月31日)
非流動資産	532,555	530,838
流動資産	249,047	257,754
資産合計	781,602	788,592
負債合計	634,125	644,877
資本合計	147,477	143,715
負債および資本合計	781,602	788,592

事業別連結売上高構成比



● 建築用ガラス 欧州	16%
● 建築用ガラス アジア	14%
● 建築用ガラス 米州	10%
● 自動車用ガラス 欧州	24%
● 自動車用ガラス アジア	11%
● 自動車用ガラス 米州	17%
● 高機能ガラス	8%

特集 NSGグループ100年の歩み

「日米板硝子」の誕生

第一次世界大戦終結直後の1918(大正7)年11月22日に、当社は設立されました。

20世紀初頭、欧州が世界の板ガラス製造の先進地域であったなか、米国のリビー・オーエンスシートグラス社(現ピルキントンノースアメリカ社。以下「リビー社」)が「コルバーン式板ガラス製法」を開発し、機械式による量産化の道を切り開きました。当社創設者である杉田與三郎は単身渡米し、同社との間で技術導入契約を締結することに成功します。リビー社が同製法による最初の製品を出して数か月後のことでした。当社は、同社との関係を踏まえ「日米板硝子株式会社」として、日本におけるコルバーン製法による板ガラス製造に乗り出したのでした。(1931年に現社名「日本板硝子株式会社」に変更)

それはまさに今日のベンチャービジネスのようなスタートでした。



創業の地である二島工場(現福岡県北九州市)にて

1918

フロートガラスの登場

それから40年後の1958年、英国で革新的なガラス製造技術が誕生しました。ピルキントン・ブラザーズ社(現ピルキントングループ社。以下「ピルキントン社」)が、7年の歳月と巨額の研究費をかけて、「フロート製法」を開発したのです。

同製法は、ガラス素地を完全な水平を保つ溶融金属(スズ)の上に浮かべながら流すことで、均一な厚さと高い平面精度を有するガラス(フロートガラス)を製造するというもので、現代の建築用や自動車用板ガラスのほとんどはこのフロートガラスです。

このフロート製法は、1965年、アジアで初めて当社舞鶴工場に導入されました。そして、その翌年には当社が特厚のフロート板ガラス製造技術を開発して同社にノウハウを提供するなど、両社は技術交流等を通じて信頼関係を構築していきました。



フロート技術導入契約調印式

3社が一つとなり新たな100年へ

その後、ガラス業界における世界的な再編の流れのなかで、リビー社がピルキントングループの一員となり、2006年にはピルキントングループが当社グループに合流しました。こうして、米国リビー社、英国ピルキントン社が加わり、NSGグループは、連結売上高6千億円超、連結従業員数約2万7千人のグローバルな企業グループとして新たな一歩を踏み出したのです。

そして、2018年11月22日、当社は創立100周年を迎えました。

2018

NSG

GROUP

特集 NSGグループ100年の歩み

1918

大阪で日米板硝子株式会社を設立



創立事務所が置かれたビル
(のちの本社)



製品ラベル

1931

社名を日本板硝子株式会社に変更



1936

四日市工場（現四日市事業所）開設



1964

千葉工場（現千葉事業所）開設

1965

アジア初となるフロート方式によるガラス製造を舞鶴事業所で開始



アジア初のフロートガラス

1968

伊丹に研究所（現技術研究所）を開設

1968

セルフロック® 開発

1970

日本安全硝子株式会社を吸収合併し、川崎工場及び京都工場（現京都事業所）を開設

1971

マレーシアに初の海外投資 (Malaysian Sheet Glass Sdn. Bhd.)



合併契約調印

1995

ベトナムに建築用ガラスの合併会社 (Vietnam Float Glass Co., Limited) を設立

1997

世界初 真空ガラス スペースシア®を開発、販売開始



1999

日本硝子繊維株式会社を吸収合併し、津事業所を開設



合併契約調印

2018

創立100周年を迎え 新たな100年へ



1910

1920

1930

1940

1950

1960

1970

1980

1990

2000

2010

1920

二島工場（福岡県）にて板ガラスの生産を開始



コルバーン式板ガラス製造設備

1949

尼崎に研究所を開設

1950

東京、大阪他国内主要証券取引所に株式上場

1952

舞鶴工場（現舞鶴事業所）開設



1954

日本安全硝子株式会社を設立し自動車用安全ガラスの製造に進出



1975

タイミングベルト用 グラスコード 販売開始

1978

超薄板ガラス (UFF®) 生産開始

1979

日本板硝子材料工学助成会を設立

1980

川崎工場 相模原製造所 (現相模原事業所) 開設



2001

ピルキントン社を持分法適用会社に

2004

日本無機株式会社のバッテリーセパレーター事業を吸収統合し、垂井事業所開設

2006

ピルキントン社を完全子会社化

2008

委員会設置会社（現指名委員会等設置会社）へ移行

トピックス

太陽電池パネル用ガラスの製造設備を増設

今年5月、当社グループは太陽電池パネル用の透明導電膜(TCO : transparent conductive oxide) ガラスを増産するため、総額約380億円の新規設備投資を決定しました。太陽電池パネルの世界的な需要増大に対応するため、今後2021年3月期にかけて、ベトナムのフロートガラス製造ラインを改修し再稼働させるとともに、米国オハイオ州での工場増設を計画しています。

当社グループは、薄膜太陽電池パネルの世界的メーカーである米国ファーストソーラー社との間で長期供給契約を締結しています。太陽光発電の世界需要は、今後3年間、毎年2ケタ成長が見込まれており、ファーストソーラー社では高いエネルギー変換効率の最新型薄膜モジュール「シリーズ6」の生産施設を拡張中です。NSGグループはTCOガラスの増産及び太陽電池パネル用ガラスや他のVA(高付加価値)製品の提供拡大により、成長戦略を推進するとともに、再生可能エネルギーの普及に貢献していきます。



環境格付融資で最高ランクの格付を取得

当社は、株式会社日本政策投資銀行(DBJ)の「DBJ環境格付」において「環境への配慮に対する取り組みが特に先進的」という最高ランクの格付を取得しました。

当該融資は、DBJが開発した格付システムにより企業の環境経営度を評点化するもので、優れた企業を選定し、得点に応じて融資条件を設定するという「環境格付」の専門手法を導入した、世界で初めての融資メニューです。

当社は、サステナビリティへの取り組みについて、特に以下の3点で高い評価をいただきました。

- (1) 堅実かつ高度な環境経営を実践し、VA製品の普及拡大、サプライチェーンへの配慮等を通じ、持続可能な社会の実現に向けたサステナビリティへの取り組みを推進している点。
- (2) 革新的な高性能ガラス製品の分野におけるグローバルリーダーとして、経営戦略とサステナビリティへの取り組みを一体化させている点。
- (3) 2018年度より統合報告書を発行し、社会と環境のサステナビリティに対し永続的に貢献すべく新たな価値創造に取り組んでいることを社外のステークホルダーに積極的に情報発信している点。



自動車の安全機能向上に、当社VA製品が貢献

先進的な自動車における予防安全システムやヘッド・アップ・ディスプレイ(HUD)等の運転支援システムの技術革新により、高性能の自動車用ガラスの需要は世界的に拡大を続けています。

日本では、当社の防曇機能付ガラスが今年9月発売の新型シエンタ(トヨタ自動車)のトヨタセーフティセンス設定車両に採用されました。このガラスは、当社が長年培ってきた有機無機ハイブリッドコーティング技術により開発された防曇膜をフロントガラスに付与することで、冬季や梅雨などの環境下でもガラスを曇りにくくし、歩行者や車両等を認識するカメラの機能維持に貢献します。

また、北米では、8月、新発売のゼネラルモーターズ(GM)社製ピックアップトラックGMC シエラとシボレー・シルバードに、当社グループのHUD対応フロントガラスが採用されました。NSGグループのVA製品及びサービスは高い評価をいただいております。今年4月にはGM社サプライヤー・オブ・ザ・イヤーを受賞しました。同賞の受賞は1992年にこの表彰が開始されて以来2回目で、同社のグローバルサプライヤー上位1%中で唯一のグローバルガラス企業として認められたことは、私たちにとって大きな名誉となりました。



GMC シエラ



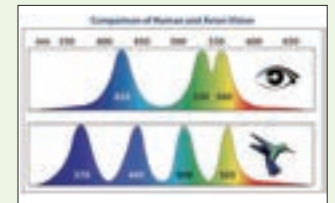
トヨタ シエンタ
(写真提供:トヨタ自動車株式会社)

こんなところにもVAガラス。鳥にも見えるPilkington AviSafe™

NSGグループのVAガラスは人に役立つだけではありません。空を飛ぶ鳥は、窓枠等のガラスの存在を識別するための視覚信号を認識することができず、空や他の建物の反射によって誤ってガラスに衝突してしまう恐れがあります。当社グループでは、英国レイザムと米国ノースウッドの研究開発チームの協働作業により、パターン化された紫外線強化反射コーティングによって、鳥の衝突を防止できるガラス技術の開発に成功しました。

これは、鳥が人間と異なる紫外線スペクトルの光を見ることができることを利用して、パターン化された紫外線強化反射コーティングをガラスに付与したもので、ガラスの美的外観を損なうことなく、飛翔する鳥が視覚信号を認識することを可能にします。

NSGグループは、今後も建築用、自動車用、高機能ガラスの各分野において様々なVA製品を開発しご提供することにより、よりサステナブルな社会の実現に貢献していきます。



人と鳥の視界の違い



inside



outside

会社概要 (2018年9月30日現在)

商号	日本板硝子株式会社	設立	1918年11月22日
本店	〒108-6321 東京都港区三田三丁目5番27号 (住友不動産三田ツインビル西館) TEL: 03-5443-9500	従業員数(連結)	26,884 人
		資本金	116,556 百万円
		上場証券取引所	東京 (証券コード: 5202)
		お問い合わせ	http://www.nsg.co.jp/ja-jp/contact-us

役員 (2018年9月30日現在)

当社は、指名委員会等設置会社制度を採用しています。

取締役

社外取締役 取締役会議長	ギンター・ツォーン	指	監	報
社外取締役	山崎 敏 邦	指	監*	報
社外取締役	木 本 泰 行	指	監	報*
社外取締役	松 崎 正 年	指*	監	報
社外取締役	竹 井 友 二			
取締役	森 重 樹	指		報
取締役	クレメンス・ミラー			
取締役	諸 岡 賢 一			

指 指名委員会 監 監査委員会 報 報酬委員会 *委員長



- 1 ギンター・ツォーン
- 2 山崎 敏邦
- 3 木本 泰行
- 4 松崎 正年
- 5 竹井 友二
- 6 森 重樹
- 7 クレメンス・ミラー
- 8 諸岡 賢一



執行役

代表執行役社長兼CEO	森 重 樹	執 行 役	石 野 聡
代表執行役副社長兼COO	クレメンス・ミラー	執 行 役	岸 本 浩
代表執行役副社長兼CFO	諸 岡 賢 一	執 行 役	西 川 宏
執 行 役	シャーリー・アンダーソン	執 行 役	ヨハン・セトルマイヤー
執 行 役	トニー・フラッジリー	執 行 役	フィル・ウィルキンソン
執 行 役	日 吉 孝 一		

グローバルネットワーク -主要製造拠点-

当社グループは世界各地に製造拠点をもち、その製品は世界100カ国以上で販売されています。



株式情報 (2018年9月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	177,500,000 株
発行可能種類株式総数	普通株式 177,500,000 株 A種種類株式 40,000 株
発行済株式の総数	普通株式 90,506,099 株 A種種類株式 40,000 株
株 主 数	普通株式 54,590 名 A種種類株式 3 名

大株主

株 主 名	所有株数 (株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	6,625,100	7.31
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	4,202,100	4.64
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	1,915,400	2.11
STATE STREET LONDON CARE OF STATE STREET BANK AND TRUST, BOSTON SSBTC A/C UK LONDON BRANCH CLIENTS - UNITED KINGDOM	1,852,500	2.04
JUNIPER	1,671,200	1.84
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口2)	1,416,300	1.56
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口1)	1,415,800	1.56
JP MORGAN CHASE BANK 385151	1,318,503	1.45
CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW	1,282,913	1.41
日本板硝子取引先持株会	1,001,878	1.10

所有者別の持株比率(普通株式)

